



天応寺の一本藤

存在感と風格漂う
樹齢百数十年の一本藤

小平町鬼鹿田代の天応寺境内にある一本藤は樹齢百数十年。一本藤は明治24年(1891年)に天応寺が建立された頃、後に2代目住職となった橋本玄真上人によって植えられ、丹精込めて育てられました。そのかいあって美しい花が咲くようになり、永く参詣の村人の心を癒してきました。

藤の花が満開を迎えるのは毎年6月中旬で、薄紫色の風情あふれる花の房は甘い香りを漂わせ、大きいものでは長さが40cmにもなるものもあります。その絢爛と見事に咲き誇る華麗な姿はいつしか広く世に知られるようになり、多くの人々が見物に訪れる花の名所となりました。

小平町の開拓の歴史とともに歩んできた一本藤は圧倒的な存在感を放ち、昭和53年(1978年)12月、小平町開基百年記念保護樹林に指定されました。一本藤を末永く保存管理し後世に伝えていくことを目的として、昭和54年(1979年)には天応寺一本藤保存会も結成され、地道な保存活動に取り組んできましたが、平成18年を最後に保存会の活動も終了し、現在は天応寺で保存活動を行っています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



満開時の一本藤は圧倒的な存在感を放ち、その姿は見るものに気品と風格を感じさせます。



見事に咲き誇る様子もさることながら、天応寺の境内にはその芳醇な甘い香りが立ち込めて、訪れる人々を楽しませてくれます。

見どころ

棚の広さは畳100畳分、花の房は40cmにもなるといい、薄紫の花の風情溢れる姿は、長い歴史を生き抜いてきた圧倒的な存在感に満ちています。

ポイント

樹齢百数十年といわれる一本藤は町民だけでなく、町外から鑑賞に訪れる人も多い花の名所です。昭和30年代には旭川から小平町鬼鹿まで、臨時列車が運行するほどの賑わいだったほどで、開花時期は写真撮影スポットとしてもお勧めです。

■基本情報 (R7. 3)

文化財指定：小平町開基百年保護樹林
指定年月日：昭和53年12月25日
住 所：留萌郡小平町字鬼鹿田代天応寺境内
推定樹齢：約130年
T E L：0164-57-1706